



授業づくりの視点

教師が単元で身に付けたい力を明確にした上で、児童自身が自分の学びを自覚できるように指導方法を工夫しましょう。

「書くこと」の領域では、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」といった学習過程における指導事項を確認した上で、それぞれの学習過程を明確にした授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 まとまりに分けて、お話を書こう【第2学年】 B書くこと

教師が作成した文章のモデルを見聞きして意欲を高め、絵からイメージを膨らませて「はじめ」「中」「終わり」のつながりを意識して文章を書き、1年生に向けて読み聞かせをする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

書いた文章を読み返して、誤字、脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正したりする。

思考力、判断力、表現力等

絵を基に書く内容を決め、構成を考えながら短い文章でメモする。語と語や文と文との続き方に注意して文章を書く。書いた文章を交流して読み合い、感想を伝え合う。

学びに向かう力、人間性等

絵から想像を広げて進んで文章に表そうとしたり、書いた文章を繰り返し友達に伝えようとする。

3 単元のデザイン 全11時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見直しをもつ	◎ 絵からイメージを膨らませて、自分だけのオリジナル文章を作り、1年生に紹介するという単元全体のイメージをつかむ。 ・先生が作ったお話はとても楽しかった。自分も早く作ってみたい。 ・作ったお話を1年生に紹介するのが今から楽しみだ。 
「お話メモ」を基に文章を書く 本時	◎ 文章を書いていく中で、アドバイスが必要なときに友達と読み合う。 ・「中」と「終わり」のつながりをスムーズにするのが難しいな。友達に相談したら、文の順番についてアドバイスしてくれて嬉しかった。 ・書き方のポイントに沿って文の順番を工夫したら、感動的な文章になったぞ。
文章を読み直す	
1年生に読み聞かせをする	◎ 出来上がった文章を1年生に読み聞かせ、感想から自分が工夫した表現が伝わりやすかったことに気付く。 ・おもしろいと言ってくれたところは、自分が工夫して書いた登場人物の特徴が表れたところだった。書き方を工夫するとよく伝わるんだな。
単元のまとめをする	

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 単元の導入時に児童とともに作成した学習計画を授業の導入時に提示する。
- 板書を基に学習過程を振り返らせ、次時に学んでいきたい内容を児童とともに確認する。

対話的な学び

- 自分が表現したい内容を友達に伝えた上で、互いの文章を読み合う時間を取り、伝えたいことが伝わってきたかどうかの視点で交流させる。

深い学び

- 「はじめ」「中」「終わり」のつながりを確かめたり、モデル文から捉えた書き方のポイントに沿っているかについて読み直したりする場を設定する。

Point

見通しをもたせる
提示

学習計画等を活用して、本時の位置付けを児童とともに確認しましょう。その際、学ぶ目的を明確にして、見通しをもって学習に取り組みせるようにしましょう。

Point

意図的な話し合い
の場の設定

モデルを基に書き方のポイントを捉えさせた上で、そのポイントを意識して書く活動を行わせるようにしましょう。その際、児童同士の話し合いを通して、ポイントに気付かせるようにしましょう。

Point

学びの自覚を促す
個別支援

書き方のポイントに沿って表現できたかどうかを児童自身に自覚させた上で、教師が評価して位置付けましょう。その際、児童の学力の定着度を見極めることを大切にしましょう。

本時のねらい

文の続き方に注意しながら表現の仕方の工夫について考え、登場人物の特徴を捉えて文章を書くことができる。

本時の流れ

学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する

めあて

読む人を引きつける「はじめ」の書き方について考えよう

モデル文からよりよい表現の仕方について考える

よりよい表現の仕方のポイントを意識して、メモを基に文章を書く

書いた文章を読み直す

学習内容をまとめる

まとめ

読む人を引きつけるためには、文の続き方に注意しながら登場人物の特徴が分かりやすい紹介をするとよい

振り返りをする

児童の学びの姿

- ◎前時までの学習を振り返り、教師が作成した例文を基に本時のめあてをつかむ。
- これまでの勉強では、お話のメモを書いてきたね。
 - メモを使いながら、工夫して文章に表すことが大切だ。
 - 読む人を引き付けるポイントを見つけていきたいな。

- ◎モデルとなる文章の中から、工夫した表現の仕方について考える。
- 登場人物の特徴を表すには、「住んでいるところ」「色」「動き」等いろいろなポイントがあるんだ。
 - 〇〇さんが「主人公を赤色にしたら強そうだよ」ってアドバイスしてくれてよかった。

- ◎メモを基にして、自分の伝えたい内容にぴったり合った言葉を用いて文章を書く。
- 文の続き方によって、強調したい内容が変わるんだな。
 - 先生が文の順番についてアドバイスしてくれて、登場人物の体の大きさが伝わりやすくなったぞ。



- ◎本時の学習を振り返り、分かったこと、できるようになったことを確かめる。
- 「はじめ」に書くべき内容がよく分かったぞ。
 - 登場人物の特徴がはっきりした文章が書けるようになった。

教師の手だて

主体的な学びの手だて 「学習の進め方」(学習計画)を提示し、本時は今までに考えたお話メモを基に、詳しく文章を書いていくことを確認する。

- 教師が作成した「はじめ」の文章を示し、メモをつなげただけでは、読み手を引き付ける文章にはならないことに気付かせ、めあてをつかむことができるようにする。

対話的な学びの手だて 既習内容の「スイミー」の「はじめ」の部分モデルとして例に挙げ、特徴をいくつか捉えられたところで、近くの友達と交流する場を設定する。

深い学びの手だて 登場人物の一番大切な特徴を明確にできるように、どの順番で特徴を書いたらいいかを個別に投げかけたり、書き方のポイントに沿った箇所に花丸を付けたりする。

- 板書を基に、「はじめ」の書き方について確認できたこと、その書き方を使って実際に「はじめ」の部分の文章が書けたことを想起させる。



授業づくりの視点

社会的事象の中から疑問に思ったこと等を課題として見だし、予想したり、学習計画を立てたりする等、児童が主体的に授業に取り組むことができるように教材研究を深めましょう。

課題を追究したり解決したりする活動を充実させるために、「動機付け」「情報収集」「考察・構想」等、単元における学習過程を工夫した授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 安全な暮らしを守る [第4学年]

安全な生活を守る警察の諸活動について調べ、それらと人々の安全・安心な生活の維持・向上との関連や、安全・安心を守るための工夫や努力について考え、自分の言葉で適切に表現する単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域社会における人々の安全・安心な生活を守るための警察の働きと、そこに従事している人々や、地域の人々の工夫や努力を理解する。

思考力、判断力、表現力等

人々の安全・安心を守るための働きと、そこに従事している人々の工夫や努力について様々な立場から調べたり考えたりして、その過程や結果を適切に表現する。

学びに向かう力、人間性等

地域社会における人々の安全・安心な生活を守るための警察の働きについて進んで調べようとしていたり、自らの生活に生かそうとしていたりする。

3 単元のデザイン 全10時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の課題をつかむ	◎ 前の単元で消防について調べたことを思い出し、単元のイメージをもつ。 ・警察の仕事は消防の仕事とどこが違うのかな。調べてみたいな。
交通事故が起きた時の、警察の活動について考える 本時	◎ 交通事故が起きた時の警察の活動について予想し、調べたり考えたりする。 ・警察はパトカーで現場にかけつけるのではないかな。 ・事故が起こったら、警察と消防が協力しながら活動するんだね。
インタビューや資料から警察の仕事の大切さについて考える	◎ 警察は人々の安全・安心な生活を実現するために、地域の人々と協力しながら様々な取組を行っていることを考える。 ・警察は、地域の人々と協力しながら安全・安心な生活を守っているんだ。
単元のまとめをする	◎ 分かったことや考えたことをまとめたり、自らの生活に生かしたりする。 ・私達が安心して生活できるのは、警察等の諸機関と地域の人々のおかげなんだ。 ・私も地域の一員として、交通安全の活動に参加してみよう。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 社会的事象から課題を見いだす場を設定することで、課題を自分事として捉えさせる。
- 単元全体の学びを振り返らせ、日々の社会生活に活用させる。

対話的な学び

- 警察等の役割について、互いの考えを伝え合う場を設定することで、新たな視点に気付かせたり、考えを広げさせたりする。

深い学び

- 分かったことを比較・関連付けする場を設定することで、他の単元や社会的事象に応用できる知識を獲得させる。

本時のねらい

交通事故が起きた時の警察の活動について資料を基に調べ、警察や消防が連携して迅速に対応していることについて考えることができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてをつかむ

◎ **事故現場の動画からの気づきを基にして、本時のめあてをつかむ。**

- ・交通事故が起こった場所に警察官がたくさん集まって話しているよ。
- ・交通事故が起こったら、警察官はどんな仕事をしているのだろう。

主体的な学びの手立て

交通事故が起こった直後に警察が活動している動画を提示することで、交通事故発生時の警察の活動について学習していくという見通しをもたせる。

Point

動画を活用した導入

導入では、映像資料を提示する等、社会的事象への関心を高めさせたり、解決への見通しをもたせるようにしましょう。

めあて
交通事故が起きたら、だれがどのように活動するのだろうか

◎ **個人で調べたり考えたりしたことを班で発表する。**

- ・私の考えはAさんと似ていて、警察は運転手から話を聞くだけではなく、交通整理等の仕事もしていると思う。
- ・みんなで書き込んだワークシートを見ると、110番に電話をしたら警察につながるだけでなく、消防にもつながることに気付いたよ。

対話的な学びの手立て

班に一枚のワークシートを配付し、警察や消防等の活動について調べたり考えたりしたことを記入させ、友達と比較させることで、新たな視点に気づきやすくする。

Point

考えた内容を明確にした説明

「私の考えはAさんと似ていて～です」「Bさんの考えとは少し違うけれど～です」というように、社会的事象についてどのように考えたのかを明確に説明できるようにしましょう。

交通事故が起こった時の警察や消防等の活動について、個人で調べたり考えたりしたことを発表する

◎ **班で考えをまとめ、発表する。**

- ・警察と消防は役割は違うけれど、互いに協力してけが人の命を守ったり、交通事故の現場が混乱しないよう交通整理をしたりしているんだな。
- ・私達の安全な生活は、警察や消防等の働きによって守られているのだな。

深い学びの手立て

板書した児童の発言を線や矢印でつないだり、同じ内容のものを枠で囲って「すばやい連絡」「役割分担」等のキーワードで整理したりすることにより、比較したり関連付けたりしやすくする。

Point

構造的な板書

児童の発言を板書して可視化し、線や矢印でつないだり、同じ内容のものを整理したりすることで、児童が複数の社会的事象を比較・関連付けしやすくなるようにしましょう。

班で考えをまとめ、全体で発表する

学習内容をまとめる

まとめ

交通事故が起きたら、警察が中心となって、消防等と協力しながらすばやく活動する

◎ **学習して分かったことを、自分の言葉でまとめる。**

- ・友達の意見とは違うところに注目することで、新しい考え方ができたぞ。
- ・警察の仕事についてもっと詳しく調べてみたいな。

○本時の学習を通して分かったことだけでなく、警察の働きに対する考え方が変わった点や疑問に思ったこと、もっと調べてみたいこと等を記述させる。

振り返りをする



授業づくりの視点

事象を数量や図形及びそれらの関係等に着眼して捉える「見方」と、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考える「考え方」を働かせながら、より質の高い学びにつなげましょう。

「日常の事象から見いだした問題を解決する活動」「算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動」といった数学的活動を充実させ、数学的に考える資質・能力を育みましょう。

授業実践事例

1 単元の概要

面積 [第4学年]

正方形や長方形といった図形の面積について単位と測定の意味を理解し、面積の単位や図形を構成する要素に着目して面積の求め方について考え、それらを用いることができるようにする単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

面積の単位 (cm^2 , m^2 , km^2) について知る。正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解する。

思考力、判断力、表現力等

面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察する。

学びに向かう力、人間性等

面積の大きさを数値化して表すことよさに気づき、進んで正方形や長方形の面積の公式を見いだしたり、公式を活用したりしようとする。

3 単元のデザイン

全10時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の課題をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 花壇の広さ比べから、単元の課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・花壇の広さはどうやって比べたらよいのかな。 ・広さの表し方や求め方を調べていきたいな。
正方形や長方形の面積の求め方を考察する	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 正方形や長方形の面積の求め方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・縦、横の辺の長さから面積を計算で求めたよ。
複合図形の面積の求め方を考察する 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 複合図形の面積の求め方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・面積の公式が使えるように形を工夫したよ。
大きな面積の表し方を考察する	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 大きな面積の表し方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・長さの単位がkmのときの面積の表し方を考えてみたいな。 ・1m^2よりもっと大きな単位があることが分かったよ。



○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○問題提示を工夫し、広さの表し方や求め方に対する問いを引き出し、学習への興味・関心がもてるようにする。

対話的な学び

○広さの表し方や求め方を図や式を用いて伝え合わせ、考察を深めたり表現を洗練したりできるようにする。

深い学び

○図形の特徴に着目させ、広さの表し方や求め方を根拠を基に筋道を立てて考えさせたり、統合的・発展的に考察させたりする。

本時のねらい

複合図形を長方形や正方形に分けたり、大きな長方形と見たりすることで、既習の面積の公式を活用して面積を求めることができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてをつかむ

- ◎ **L字型図形を観察し、問いや面積の求め方の見通しをもつ。**
- ・長方形や正方形の面積の公式がすぐに使えない形だな。
 - ・どんな形にすると面積の公式が使えるのかな。
 - ・長方形になるように形を直してみよう。

主体的な学びの手だて L字型図形の一部から段階的に提示し、図形の特徴を捉えさせる。



Point

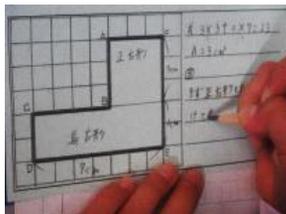
問いや見通しをもたせる

問題提示の仕方を工夫したり、既習事項と関連付けたりして児童の問いを引き出し、方法や結果の見通しをもたせるようにしましょう。

めあて
公式がすぐに使えない図形の面積の求め方を考えよう

- ◎ **L字型図形に分けたり補完したりする等、面積の求め方を考える。**
- ・二つの長方形に分けてみよう。
 - ・正方形と長方形にも分けられそう。
 - ・小さい長方形をつぎ足して、大きな長方形から、差し引いてみよう。

○方眼に図形を記したカードを配付し、求め方を表現させる。



Point

数学的に表現し伝え合う

図、数、式等の数学的な表現を用いて、考えを表現したり、考えたことや工夫したことを伝え合って共有・吟味したり、表現をより簡潔、明瞭、的確になるように洗練したりしましょう。

L字型図形の面積の求め方を話し合う

- ◎ **求め方を発表し、考察したり表現を洗練したりする。**
- ・このままの形では面積が求められないので、公式が使えるように二つの長方形に分けて計算で面積を求めたよ。

対話的な学びの手だて 全体で求め方を伝え合わせ、図を基に式の意味を捉えさせる。



多様な求め方のよさを確かめる

- ◎ **凸字型図形で考えのよさを確かめ、それぞれの考えを関連付けながら考察を深める。**
- ・他の図形でも、分けたり、つぎ足したりする考えが使えることが分かったよ。

深い学びの手だて 多様な求め方のよさや共通点を探らせ、どの考えも既習の求積可能な図形に帰着できることに気付かせ、考えを統合させる。

学習内容をまとめる

- ◎ **何をどのように学んだのかを自分なりに整理する。**
- ・どんな図形でも公式が使える習った長方形や正方形に形を直すと面積が求められることが分かったよ。
 - ・次は、階段のようなもっと複雑な形の面積の求め方を考えてみたい。



Point

統合的・発展的に考察する

複数の考えを一つの観点から束ねて統合したり、考察範囲を広げながら発展的に考えたりする等、数量や図形を統合的・発展的に考察させ、学びを深めさせましょう。

まとめ
公式が使える習った形に直せば、面積は求められる

振り返りをする



授業づくりの視点

児童が問題を見いだす場面を設定し、予想や仮説を発想する時間をとりましょう。また、見通しをもたせ、観察、実験などを行いましょう。

根拠を基に考えを伝えたり話し合ったりする学習場面を設定して、自分の視点を広げ考えが深まるようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 物の溶け方 [第5学年]

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量等の条件を制御しながら調べる活動を通して理解を図り、観察、実験の技能を身に付けるとともに、予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

物の溶け方について、物が水に溶けた時に、水と物を合わせた重さは変わらないことや、溶ける量には限度があり、水の温度や量によって違うこと、また、溶けている物を取り出すことができることを理解するとともに、観察、実験等に関する技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する。

学びに向かう力、人間性等

物の溶け方について意欲的に問題解決に取り組んだり、自分の活動を振り返り、意味付けしたり、学んだことを日常生活に当てはめたりしようとする態度を養う。

3 単元のデザイン 全16時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元を通して解決する課題（疑問）を見いだす 本時	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 食塩等が溶ける様子を観察し「溶ける」ことを捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・物が溶けるって、物が全体に広がり見えなくなることだ。 ◎ 食塩等の溶け方について疑問や調べたいことを見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・物が溶けた時の重さは変わらないのだろうか、溶ける前と後を比べてみよう。 ・物が溶ける量には限界があるのだろうか、溶ける限界まで溶かしてみよう。 ・どのようにしたら、溶けた物を取り出すことができるだろうか。
単元の導入で出てきた疑問を、実験を通して考える	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 出てきた疑問に対して、予想や仮説を基に解決の方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ実験をしたのに、結果から考えた考察は他の班と少し違うぞ。 ・溶ける量を考える時に、水の量を一定にしないと結果は比べられないな。
単元で学んだ知識を基に、日常生活での事象に当てはめて考える	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 日常生活の中で「物を溶かす」現象について改めて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・紅茶に砂糖を入れた時、見えない砂糖の粒はバラバラになって広がっているんだ。 ・社会で習った塩田は、水を蒸発させて塩を取り出していたね。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 観察、実験では、予想や仮説を発想する時間を取り、結果の見通しをもたせる。
- 既習の知識で説明できないことに気付かせることで、今後の問題の見通しをもたせる。

対話的な学び

- より妥当性のある考察になるよう、班や全体で話し合う活動を意図的に取り入れ、児童一人一人が観察や実験の結果の事実を根拠にした考察ができるようにする。

深い学び

- 多くの事象を扱い、水溶液の共通性について考えることで一般化した理解ができるようにする。
- 問題解決の力を身に付けるために、第5学年で重視する考え方の「条件制御」を意識して行う。

本時のねらい

食塩等の「溶ける」様子を観察し、その結果を図に表し交流する中で、疑問に思ったことや調べてみたいことを見いだすことができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

本時のめあて
をつかむ

めあて
食塩などが溶
ける様子を観
察しよう

食塩が水に溶
ける様子を観
察し、個人で
考えた後、物
の溶ける様子
について話し
合う

その他の物の
溶ける様子を
調べ、食塩の
溶ける様子と
比べる

学習内容をま
とめる

まとめ
物は、溶ける
と全体に広が
り透明になる

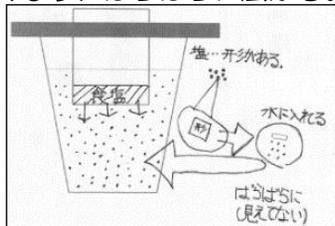
振り返りをす
る

◎生活経験から「溶ける」現象
について想起し、学習の見通
しをもつ。

- ・砂糖が溶ける。
- ・塩が溶ける。
- ・砂糖や塩はどのように溶けて
いるのかな。

◎食塩が溶ける様子を予想し観
察する。結果を言葉や図で表
し、班で話し合う。

- 〈予想〉
- ・上から下にだんだんと溶けて
いく。
- 〈結果〉
- ・もやもやした物が下に流れる。
 - ・時間がたつと、もやもやが見
えなくなった。
- 〈考察〉
- ・食塩の粒は、見えないほど小
さくなり、ばらばらに広がる。



〔班の考察結果の例〕

◎入浴剤等の他の物質が溶ける
様子と、食塩の溶ける様子と
を比べる。

- ・物は全体に広がるように溶け
る。
- ・溶けると色が変わる物がある。
- ・物が溶けた後は透明になる。

◎食塩等の溶ける様子について
疑問や調べたいことを見いだ
す。

- ・物が溶けた時の水溶液の重さ
はどうなるんだろう。
- ・物によって溶ける様子には違
いがあるのかな。

○児童がこれまで経験した物の
溶ける様子を想起させ、実際
に食塩が溶ける様子を観察す
ることを通して物が溶けるこ
とについて考える。

○予想を立てた後、食塩が溶け
る様子の観察を行い、視覚的
に捉えた現象を自分の言葉で
書くようにする。

**対話的な学
びの手だて** 自分の考察を一人
ひとりの発表した後、
溶ける様子をどのように解釈
したかについてそれぞれの考
えを班で話し合わせる。

○児童に、食塩の粒が溶けた後
どうなったのかを考えさせる。
その際、「重さには変化がある
のかな」と聞くことで、既
習の知識だけでは解釈できな
い事象があることに気付かせ
る。

**深い学びの
手だて** 入浴剤等の色の付
いている物でも食
塩と同様に調べさせることで、
水溶液の性質の共通性を見い
だす。

○「透明には、無色透明と有色
透明って言葉があるけど」と
透明に着目させ科学的に正し
い表現にも言い直しをさせる。

**主体的な学
びの手だて** 考察時に出てきた
既習の知識だけで
は、上手く説明できない問題
について再び考えさせ、単元
全体の学習の見通しをもたせ
る。

Point

結果の事実を
基に考えをもつ

結果は、観察、実験
から得られた事実で
す。考察は、その事
実の解釈です。結果
と考察を区別し、結
果を基に考察でき
るようにしましょう。

Point

共通性を
見いだす

他の物についても同
様な方法で観察を行
うことで、それぞ
れの事象の共通性を見
いだし、科学的な考
察ができるようにし
ましょう。

Point

解決する
問題を見いだす

これまでの経験や既
習内容では、理解で
きなかつたり、説明
できなかつたりする
事象を児童に考えさ
せることで、解決す
る問題を見いだすよ
うにしましょう。



授業づくりの視点

身近な人々や社会、自然と繰り返し関わり、試行錯誤をする中で、事象を注意深く見つめたり、予想を確かめたりする学び方を身に付けるようにしましょう。

体験した活動を振り返り、言葉や絵等で表現し伝え合うことで、無自覚で行った活動のよさや活動への思いを自覚できるようにしましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 「みんなのここここ だいさくせん」 [第1学年]

家庭での自分の生活や家族の思いに目を向け、自分や家族が笑顔で過ごせるためには、どのようなことができるかを考え、計画を立てて実行することを通して、自分の役割や成長に気付く単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び 技能の基礎

家庭での家族や自分の「ここここ」が、自分の生活と深く関係していることに気付き、家庭での生活は互いに支え合っていることや家庭でできる自分の役割が増えたことが分かる。

思考力、判断力、 表現力等の基礎

家庭での「ここここ」を増やすため、家族のことや自分でできること等について考え、計画を立て実行するとともに、考えたり、聞いたりして分かったことや気付いたことを表現する。

学びに向かう力、 人間性等

家庭での自分の生活や家族への思いに関心を持ち、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりする等、支えてくれている家族に感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活しようとする。

3 単元のデザイン 全9時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
自分が「ここここ」する時を見付け、単元の見通しをもつ	◎自分が「ここここ」するのはどんな時か考え、気付く。 ・楽しい時に、ここここするよ。 ・この前の誕生日の時に、ここここしてたよ。 ・お兄ちゃんと遊んだ時に、ここここするよ。
家族が「ここここ」する時を思い出し、自分でできる取組を考え「ここここ大作戦」を実行する 本時	◎家族が「ここここ」するのはどんな時か考え、自分でできる取組を考え実行する。 ・洗濯物をたたむのを手伝えそうだ。 ・妹と仲良く遊ぶことができるよ。 ◎実行した取組をまとめ、発表し、再度取組を考え実行する。 ・私は、お父さんの腰トントンをしました（右図）。誰か、お父さん役をお願いします。こんな感じ（実演）でした。 
まとめの発表会を開き、単元を通じた取組を振り返り、まとめる	◎再度発表会を行い「ここここ大作戦」の取組を振り返りまとめる。 ・お母さん（家族）の役に立つのでこれからも洗濯物をたたむことを続けたい。 ・自分も「ここここ」になったし、家族も「ここここ」になったので違うこともやってみたい。

◎本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

◎伝え合う活動の中で、様々な方法（絵、言葉、動作）を用いて表現させることで、自らの学びや成長に気付くようにする。

対話的な学び

◎発表を繰り返し行うことで、無自覚だった自分や友達の取組のよさに気付くことができるようにする。

深い学び

◎活動を繰り返すことで、「役に立ってうれしい」ことに気付かせ、できることが増えた自分の成長について考えるようにする。

本時のねらい

「にこにこ大作戦」を実行して分かったことや気付いたことを伝える取組を通して、家族をもっと「にこにこ」させるためにできることを考え、もう一度計画を立てる。

本時の流れ

本時のめあてをつかむ

めあて

「にこにこ大作戦」でしたことを紹介しよう

「にこにこ大作戦」の取組をみんなに紹介する

紹介を通して感じたことをまとめる

まとめ

みんながしているいろいろな取組は家族の役に立っている

本時の学習を振り返り「にこにこ大作戦パート2」を計画する

児童の学びの姿

◎これまでの取組から本時の活動を考える。

- ・家族が「にこにこ」するための取組を考えて実行してきた。
- ・「にこにこ大作戦」でしたことを紹介したい。

◎自分の取組をまとめて、クラスで発表する。

- ・私は、晩ご飯づくりのお手伝いをしました。(実演しながら)こんな風に野菜を切りました。お母さんから、「手伝ってくれてありがとう、これからもよろしくね」と言ってもらいました。



◎みんなの発表や黒板に貼られたシートから気付いたことを相互に発表する。

- ・晩ご飯のお手伝いで、キュウリやキャベツなどの野菜を切れるようになったよ。
- ・私のしたお手伝いは家族の役に立っている。

◎継続したり、新たに挑戦したりすることを考える。

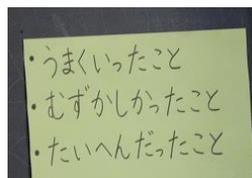
- ・今度は、違うお手伝いをしたいです。理由はお母さんの役に立ちたいからです。

教師の手だて

- 前時までの取組をまとめた掲示物を1枚ずつ示し、「どんなことを勉強してきたかな」と尋ね、確認しながら、「今日はどんな勉強をしたい」と問い、本時の活動を考えさせる。

主体的な学びの手だて
対話的な学びの手だて

自分の取組を言葉だけではなく、絵や動作を用いて表させる。この時、「うまかったこと」「たいへんだったこと」等の気づきを深める質問項目を掲示し、その掲示を活用して、児童相互に質問をさせることで、自分や友達の取組のよさに気づきやすくする。



【質問の掲示物の例】

深い学びの手だて

児童の発表後「なぜ、家族が「にこにこ」になったのでしょうか」と問い直すことで、自分にできることが増えたことや家族の役に立つ事ができたという、気づきを促す。

- 児童の役割や成長に関する気づきを促すために、「にこにこ」にするための取組を繰り返し行わせる。その際、挑戦したい取組の思いや願いを理由を付けて発表させる。

Point

前時までの学習の想起

前時までの学習内容を想起させるために、学習した具体的な取組を順に示す等の支援を行いましょ。また、本時の活動を主体的に考えるような支援を行いましょ。

Point

多様な方法で表現

自分の取組を絵や言葉、動作等の多様な方法で表現し、教師や友達から質問し、フィードバックを得ることで、児童が取組のよさに気づくようにしましょ。

Point

気づきを促す振り返り

振り返りでは、取組に関する思い等の理由を付けて発表することで、取組のよさへの気づきを促しましょ。その際、同様な進め方での発表を繰り返すことを大切にしましょ。



授業づくりの視点

授業の導入では、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付かせる等、興味や関心を高める工夫をしましょう。

音楽表現を高めるために音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科に応じた言語活動を位置付けましょう。

音楽の面白さに気付かせたり、表現を工夫させたりすることで、一人一人の学習の深まりにつながるようにしましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 **せんりつの重なりを感じ取ろう** [第4学年]

旋律が重なり合う響きを感じ取りながら、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫し、自分や友達の声を聴き合いながら、思いや意図をもって歌ったり、旋律の反復や重なりによる曲想とその変化を感じ取り、楽曲のよさや面白さ、美しさを聴き味わったりする題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

学びに向かう力、人間性等

進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしようとする態度を養う。

3 題材のデザイン **全5時間**

本題材の流れ	児童の学びの姿
題材の見直しをもつ	◎ 学習で扱う曲を聴き、本題材のイメージをつかむ。 ・それぞれの曲には特徴がありそうだ。歌い方を工夫できそうだな。 ・どのように表現すればいいのかな。試しながら歌ってみよう。
「ファラドール」の旋律の特徴等を感じ取る	◎ 曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。 ・二つの旋律の特徴や重なり合いを動作や言葉で表現したいな。
「パレードホッパー」の表現を工夫する 本時	◎ 異なる二つの旋律の重なりを感じて歌う。 ・旋律が重なることで曲が盛り上がったな。 ・それぞれの旋律の特徴を生かしながら歌おう。
題材のまとめをする	◎ お互いの旋律を聴き合って二部合唱を工夫する。 ・友達の歌声や副次的な旋律を聴きながら、自分の声を合わせて曲想にふさわしい表現で二部合唱したいな。

◎本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○音や音楽と出会う場面において、児童に音楽のよさ等を感じ取らせることで、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気付くことができるようにする。

対話的な学び

○音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりできる場を設定し、言語活動を充実させることで、新たな特徴に着目できるようにする。

深い学び

○旋律に着目し、旋律の特徴や楽曲の構造と曲想との関わりについて考えさせることで、音楽の面白さを捉えることができるようにする。

自分の授業に取り入れて
みましょう。

Point

音楽表現への
興味・関心

導入では、異なる曲同士を比較させたり、音楽の特徴や構造に着目させたりする等、音楽表現への興味・関心を高める工夫をしましょう。

Point

音楽表現を
高める言語活動

表現の工夫を促すには、音楽的な特徴を共有する言語活動を設定し、実際に歌ったり、話し合ったりして曲の特徴を捉えることができるようにしましょう。

Point

面白さ・表現の
工夫の実感

終末では、まとめの合唱を聴き合う等、学習の手応えを実感する場を設けることにより、音楽の面白さや表現の工夫を捉えることができるようにしましょう。

本時のねらい

異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして歌うことができる。

本時の流れ

前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ

めあて

異なる二つのせんりつを重なりを感じながら歌おう

自分なりに歌い方を工夫したり、友達と歌い方について話し合ったりする

旋律の特徴を生かして歌い方を工夫する

学習内容をまとめる

まとめ

二つのせんりつを歌う時に、強弱や音色を工夫することができた

振り返りをする

児童の学びの姿

◎前時の学習について話し合い、学習の見通しをもつ。

- ・「パレードホッパー」と「ファランドール」は同じように旋律を重ねて演奏することができそうだ。
- ・重ねて歌う時、声の大きさに気を付けて歌うとよさそうだ。

◎二つの曲の旋律の特徴を生かしながら、異なる旋律が重なり合う面白さを感じて歌う。

- ・〇〇さんはアのパートのスタカートで、短く切って歌えていると思います。
- ・〇〇さんはイのパートを、なめらかに歌えていて、特徴がはっきり表せていたと思うよ。
- ・二つのパートが重なって、曲が盛り上がっているよ。
- ・アのパートが、イに比べて大きすぎるので、同じ大きさで歌おう。
- ・イのパートが、アのパートにつられてだんだん小さくなるので気を付けよう。

◎重なりを感じながらまとめとしての合唱を行う。

- ・合唱の録音を聴くとクラスの音楽表現が高まっていることが分かったよ。
- ・どのようにしたら旋律の重なりを感じて歌うことができるか分かったよ。

教師の手だて

主体的な学びの手だて 雰囲気異なる旋律の重なりについて話し合わせることで、歌唱に生かしたいという意欲を高める。

- 楽譜を提示し、視覚的にリズムの比較ができるようにする。



対話的な学びの手だて 全員で歌ってみたり教師が範唱したりして、感じ取ったことを出し合う場を設定することで、二つの曲の旋律の特徴について気付かせるようにする。

- 言語化の苦手な児童に対して、キーワードだけを挙げさせる等、ワークシートの記述の仕方を工夫する。



深い学びの手だて まとめとして録音した合唱を聴き、それを基に話し合うことで、旋律を重ねて歌うことの価値や楽しさを感じられるようにする。



授業づくりの視点

「A表現」では、児童の実現したい思いを大切にしましょう。4年生の「B鑑賞」では、自分の見方や考え方を広げられるようにしましょう。

児童が自分の感覚や活動を通して、材料や作品、出来事等を、形や色等の造形的な視点で捉えられるようにしましょう。

完成作品だけでなく、発想や構想したり、技能を働かせたりしている製作途中の作品を見合う等、表現と鑑賞を関連させましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 音楽会の記念CDジャケットをつくろう！【第4学年】

表現や鑑賞の活動を通して、作品に表したいことや表し方等について考えながら、形や色等の感じ、そこから受けるイメージに着目させ、自校の音楽会の曲に合うように「音楽会の記念CDジャケット」を製作する題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

作品を表現したり鑑賞したりする際に、形や色等の感じについて自分の感覚を通して分かるとともに、材料や用具を使い、表し方等を工夫して創造的に表すことができる。

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方等について考え、豊かに発想や構想をしたり、作品から自分の見方や感じ方を広げたりすることができる。

学びに向かう力、人間性等

進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、形や色等と関わり、自分の思いやイメージをもって楽しく豊かに取り組もうとする。

3 題材のデザイン 全7時間

本題材の流れ	児童の学びの姿
美術作品を鑑賞し、形や色等の感じに気付く 本時	◎ マティスの切り絵の作品を鑑賞し、形や色の感じに気付きテーマを読み取る。 ・形が踊っている人に見えるので、たぶんサーカスの絵だと思ふよ。 ・色がとっても明るいから、マティスさんは幸せな感じを表したいんじゃないかな。
曲から感じたことを基に、CDジャケットをどのように表すか考える 表したいことに合わせて、表し方を工夫する	◎ 音楽会で演奏する曲のイメージを言葉で表し、内容や雰囲気合うイメージのアイデアを考え、色紙を使って表し方を工夫し創造的に表す。 ・曲のイメージからアイデアを考えて友達と話したら、いろんな感じ方や考え方があんだなとびっくりした。もっと、いろいろ工夫したい。 ・形や色などを工夫して色紙を切ったり、紙の方向や大きさを変えたりしてみた。 ・考えたことから、白の台紙に4色の色紙を組み合わせて、工夫して貼ったよ。
完成作品を相互鑑賞する題材のまとめをする	◎ 完成した作品を相互鑑賞し、お互いの作品のよさや面白さを感じ取る。 ・曲から感じた内容やイメージって、みんな違って面白いな。 ・形や色等を工夫すれば、表したいイメージをいろいろ表現できるね。

◎本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- ◎児童が形や色等の感じに気付きやすい作品を準備し、作品と効果的に出会う場面を工夫した鑑賞の活動を仕掛ける。
- ◎造形的な視点を大切に、振り返りから学びの変容を自覚させる。

対話的な学び

- ◎作品鑑賞は、まず個人で考えさせ、児童に視点をもたせてから話し合いを行わせる。
- ◎鑑賞して読み取った作品に込められた思いや表現の工夫を話し合わせる場面を設定する。

深い学び

- ◎交流して得た作品に対する見方や考え方を基に繰り返し作品を鑑賞させたり、作品について考えさせたりすることで、作品を捉える造形的な視点を広げさせる。

本時のねらい

形や色等の感じに着目して、作品の面白さや表したいこと、いろいろな表し方について感じ取ったり考えたりすることができる。

本時の流れ

前時を確認し
本時のめあて
を知る

めあて
絵をよく見て、
作品のテーマ
を考えよう

作品を鑑賞し、
自分で考えた
テーマについて
班で話し合
う

※上記を6作
品繰り返す

学習内容をま
とめる

まとめ
色や形の感じ
をよく見ると、
作品のテーマ
が考えられる

振り返りをす
る

児童の学びの姿

◎前時のマチスの作品鑑賞から学んだことを確認する。

- いろいろな色が使われていたし形も大小あって、面白い形がいっぱいあった。
- 今日は、作品からテーマを考えるんだね。



◎マチスの作品から、テーマとそう感じた理由を考える。

- ぎざぎざの歯が面白い。きっとライオンにいらまれているんだよ。
- あたたかい色だから、テーマは「幸せの心」だと思ふな。



- 班で話し合ったら、自分とは違う考えがあって面白いな。
- 作者の作品への思いが分かった。もう一度鑑賞してみよう。

◎鑑賞を通して気付いたことや分かったことをワークシートに記入し発表する。

- 自分と友達の考え、マチスさんの考えが違ってびっくりした。
- 色と形をよく見ると、作品のテーマが分かった。作品を描くときにも気を付けたいな。

教師の手だて

主体的な学びの手だて

形や色、イメージ等から、よさや面白さに児童が気付きやすい作品を鑑賞させる。

- 前時に気付いた視点の形や色、イメージを確認し、本時は、その視点を使って作品のテーマを考えることを説明する。
- 最初に個人で作品をしっかり見ることと、作品から考えた根拠も発表することを伝える。

対話的な学びの手だて

意図的に異なる考えを発表させ、根拠を基に作品に対する見方や考え方の違いに気付かせる。

- 最初は、テーマが捉えやすい作品を児童に鑑賞させ、その後、形や色等から作者の様々な思いが捉えられるような作品を段階的に鑑賞させる。

深い学びの手だて

対話で気付いた見方や考え方でさらに作品を鑑賞させたり、自分と友達の考えたことの違いを基に作品を捉え直させたりする。

- 学びを振り返り、本時で学んだことをワークシートに記入し、発表させる。



Point

作品から自分の
考えをもたせる

作品鑑賞では、児童が自分の考えをもってから対話をするようにしましょう。そのためには、鑑賞の視点を確認し、個人で見える時間を十分確保しましょう。

Point

根拠を交流する
話し合い

児童に自分とは違った見方や考え方があることに気付かせましょう。そのためには、根拠も一緒に発表させ、お互いの意見のよさを認め合う雰囲気大切にするとよいでしょう。

Point

造形的な視点
から考える

交流して得た見方や考え方をういて、もう一度個人で考えさせましょう。そのためには、造形的な視点を大切にしながら、新たに考える場面を設定するとよいでしょう。



授業づくりの視点

日常生活との関連を図った問題解決的な学習で、児童が課題を解決できた達成感や実践する喜びを味わえるようにしましょう。

日常生活の中から課題を発見できるように、既習の知識及び技能や生活経験を基に自分の生活を見つめる場面を設定しましょう。

実践的・体験的な活動を中心として、習得した知識及び技能を生活の場で生かせるように具体的な活動場面を設定しましょう。

授業実践事例

1 題材の概要 きれいを広めよう クリーン大作戦【第6学年】 内容B（6）

普段の清掃を見直し、落ちにくい汚れを落とす方法を調べ、実践する。実践を振り返り、よりよい清掃の仕方を考え、全校に伝える活動を通して、清掃の必要性が分かり、快適な住まいへの工夫を考える題材である。

2 題材を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

気持ちよく生活するために、住まいの清掃が必要であることが分かり、清掃の仕方を理解し、適切にできる。

思考力、判断力、表現力等

身近な生活の中から住まいの清掃に関する問題を見だし、課題を設定し、快適の視点から、効果的な清掃の仕方を考え、工夫することができる。

学びに向かう力、人間性等

快適な住まい方について身に付けた力を、家庭生活をよりよくするために生かして実践しようとする。

3 題材のデザイン 全5時間

本題材の流れ	児童の学びの姿
普段の清掃を振り返り、課題を見付ける	◎ 普段の清掃を映像で振り返ったり、児童自身で汚れを見付けたりすることで、清掃への興味や関心が高まり、試しの活動をやってみたくなる。 ・ すぐく汚れているところを見つけたよ。どうやったら落ちるかな。
調べ、実践してみる	◎ 落ちにくい汚れの清掃の仕方を調べ、実践してみる。 ・ お家の人に聞いたり、本で調べたりしたら、いろいろな清掃の工夫があった。 ・ 調べた方法でやってみたら、きれいになって嬉しかった。
よりよい清掃の仕方を考え、工夫する 本時	◎ 実践した結果を基に、汚れに合った清掃の仕方を工夫する。 ・ みんなの工夫を聞いて、前とは違う清掃の仕方で行ってみよう。
清掃の工夫をまとめ、全校に伝える	◎ 清掃の工夫を全校に伝える。 ・ 試して一番よかった清掃の仕方を分かりやすく伝えよう。 ・ 下級生が、伝えた清掃の仕方を試してくれるといいな。



○本題材における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手立て

主体的な学び

- 校内の落ちない汚れを自分達で見付け、撮影することで清掃への興味、関心を高めさせる。
- 調べ、実践した清掃の工夫を全校に伝える場を題材の最後に設け、見通しをもたせる。

対話的な学び

- 実践した清掃の仕方を班内や学級で発表させ、いろいろな方法があることに気付かせる。
- お家の人へインタビューを通して、家庭でも清掃の仕方を工夫していることに気付かせる。

深い学び

- 落ちにくい汚れの清掃の仕方を調べ、いろいろな方法を実際に試させることで、より効果的な清掃の仕方やその工夫を考えることができるようにする。

Point

めあてを主体的
につかませる

前時の振り返りを発表させたり、これまでの活動の様子を写真で見せたりして、本時のめあてをつかませる工夫をしましょう。

Point

ゲストティー
チャー等の活用

日常生活の中の課題解決を図る実践的な学びを充実させるために、学校の実態に応じて、児童の実践活動に助言をしてくださる家族の方やゲストティーチャー等に協力を依頼しましょう。

Point

振り返り時間
の確保

児童が日常生活の中の課題を解決し、その活動による自己の成長に気付けるように、活動内容を振り返るだけでなく、活動を通して分かったことや活動後の気持ち等を書かせる時間を確保しましょう。

本時のねらい

調べ、実践した結果を基に、汚れにあった清掃の仕方を考え、工夫することができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

本時のめあてをつかむ

めあて
汚れにあった清掃の仕方を考えよう

工夫した清掃の実践を発表する

発表から気付いたことを個人で考えた後、班で伝え合い関係性を見付ける

ゲストティーチャーの話聞く

実践した清掃の仕方を見直す

学習内容をまとめる

まとめ
清掃の仕方は、場所や汚れの種類で分けられ、工夫がたくさんできる

振り返りをする

◎前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

・汚れには色々な種類があることが分かったよね。

◎汚れを落とす工夫や、汚れが落ちた様子を発表する。

・古い歯ブラシを使った清掃の工夫をみんなに伝えるよ。



◎汚れの種類、場所、清掃の仕方の関係を見付ける。

・汚れの種類や場所によって清掃の工夫は似ているな。

◎ゲストティーチャーの話聞く。

・清掃の工夫が適切だったよと言ってもらえて嬉しかった。



◎自分達の清掃の仕方を見直す。

・新しい清掃の工夫を知ったから、その方法でも試してみたいな。

◎活動を振り返り、分かったことや活動後の気持ちを考える。

・清掃の仕方は汚れの種類で違うことが分かった。
・学校がきれいになって嬉しくなった。

主体的な学びの手だて 汚れを見付け、種類分けした前時の学習の振り返りを発表させ、本時の学習の見通しとめあてをつかませる。

○児童が工夫した清掃の仕方を大型モニターや実際の道具を利用して発表させ、視覚的に理解しやすくする。

○汚れの種類と清掃の仕方の関係を見付けやすくするため、児童の発表に合わせて、写真や清掃の工夫を板書する。



対話的な学びの手だて 発表や板書から気付いたことを伝え合わせ、汚れの種類や場所、清掃の仕方の関係を班で見付けさせる。

○今後の実践への意欲や達成感を得ることができるようゲストティーチャーに、児童の実践への更なる提案や工夫への称揚をしてもらう。

深い学びの手だて 汚れに応じた清掃の仕方をよりよいものにするために、他班の工夫やゲストティーチャーの助言を基に、自分達の実践の見直しを考えさせる。

○課題解決の達成感を味わい、今後の生活でも清掃の仕方を工夫していけるように分かったことや清掃後の気持ちも書かせる。



授業づくりの視点

運動に関する自らの課題を見いだしたり、解決に向けた学習過程を、単元の中に位置付けたりして主体的に取り組めるようにしましょう。

毎時間、学習活動を振り返る場を確保し、自分の運動が上達したことを実感するとともに、上達した理由を考えさせるようにしましょう。

運動することが、楽しさや喜びを実感するだけでなく、体力向上につながっていることにも着目できる活動を取り入れましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 器械運動（跳び箱運動）【第5学年】

技の美しさを単元を通して追求し、技を美しくするポイントを確認したり友達からの助言を受けたりしながら活動し、その技の上達を実感するとともに、楽しさや喜びを味わう単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」を習得するとともに、その技の名称や行い方を理解する。

思考力、判断力、表現力等

友達からの助言を受けて、「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」をより美しくするためのポイントを考えたり、繰り返し練習したりして、上達した技を表現する。

学びに向かう力、人間性等

友達と協力して運動したり、考えや取組を認め合ったりして、「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」に積極的に挑戦するとともに、試技前後の安全に配慮する。

3 単元のデザイン 全7時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
技を美しくするという単元の見通しをもつ	◎ 手本の動画を見て技のイメージをもち、その技を美しくするために活動するという単元全体の見通しをもつ。 ・動画のように「開脚跳び」「台上前転」「かかえ込み跳び」が美しくできるようになりたい。
三つの技を習得する	◎ 教師が示した技のコツに気を付けて練習し、三つの技ができるようになる。 ・コツに気を付けて練習すると、三つの技ができるようになった。
挑戦する技を選び、助言と練習を繰り返し、技をより美しくする 本時	◎ 挑戦する技をより美しくするためのポイントを考え、練習する。 ・手本と友達の動きを比べ、より美しくするためにアドバイスをしよう。 ・技を美しくするために見つけたポイントを意識し、繰り返し練習をしよう。
技の発表会を行う	◎ これまでの活動を振り返り、技が上達したことを実感する。 ・見つけたポイントに気を付けると美しい技にだんだんと近づいてきた。 ・ポイントに気を付けたり、友達と協力したりして、技が上手くなると嬉しいな。
単元のまとめをする	

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 手本の動画や技を美しくするためのコツを示すことにより、児童に見通しをもたせる。
- 気付いたポイントを大切に学習を振り返らせ、次への学びにつなげる。

対話的な学び

- 友達の練習を観察する活動、友達の動画と手本の動画を比べ助言し合う活動を取り入れ、技を美しくするために妥当性のあるポイントを見付けるようにする。

深い学び

- 自分の活動を動画で見たり、友達からの助言やフィードバックを得たりする場を設け、上達だけでなく、友達と協力することのよさを実感できるようにする。

本時のねらい

挑戦する技のポイントについて考え、友達からの助言を通してより美しく表現することができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもち、本時のめあてを確認する

めあて

挑戦する技を美しくするポイントについて考え、練習を工夫しよう

手本と自分達の動きの違いについて、個人で考えた後、友達と話し合う

友達の助言を意識して3人組で活動する

学習内容をまとめる

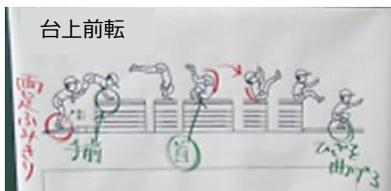
まとめ

友達からの助言から見つけたポイントを意識すると、より美しく表現できる

振り返りをする

◎**手本の動画や絵図を見て、本時のめあてをつかむ。**

- ・手本の動きや絵図を参考にし、自分に合ったポイントを見つけて練習すると、美しい技に近づけそうだ。



〔台上前転のコツを示した絵図の例〕

◎**手本と自分や友達の動きを比べ、より美しい技にするために助言し合う。**

- ・手本と同じように跳び箱の手前に手を着くといいよ。
- ・強く踏み切り腰を高く上げて跳ぶといいよ。

◎**友達の助言を意識して練習を工夫する。**

- ・強く踏み切って跳んでみよう。
- ・跳び箱の手前に手を着いたらうまく回転できた。



◎**学習を振り返り、分かったことをワークシートに書き、発表する。**

- ・友達のアドバイスを意識して練習すると上手くできた。
- ・あごを引いて回るといふポイントを見つけた。

主体的な学びの手だて

手本の動画を示したり、技のコツを示した絵図を確認させたりすることで本時のめあてをつかみやすくする。

- 三つの中から、挑戦する技を選ばせ、導入で示した技のコツに留意して練習させる。

- 練習の様子をビデオで撮影するとともに、同じ班の友達の練習を観察させる。

対話的な学びの手だて

自分や友達の動画を手本の動画と比べ、より美しくするポイントについて互いに助言し合うようにする。

深い学びの手だて

もう一度めあてを確認し、友達の助言から技をより美しくするポイントを考えさせる。その後、考えたポイントを意識して練習するように促す。

- できるようになったことや分かったことに加えて、どのようなポイントが効果的だったのかについて振り返るようにする。

Point

見通しをもたせる
提示の工夫

手本を視覚的に確認するだけでなく、技を上手にするコツを示す等して、児童がめあてを自分のこととして捉え、主体的に学ぶことができるようにしましょう。

Point

意義を明確にした話し合い

手本の動画や教師が示したコツを手掛かりにして、自分達の動画を比べて留意することをを見つけ、その上で助言し合うようにしましょう。

Point

上達を自覚する活動

個人で練習する前に、めあてに立ち返ったり、留意するポイントを意識させたりしましょう。活動後の振り返りでは、新たにできるようになったことを考えさせ、技の上達を実感できるようにしましょう。



授業づくりの視点

言語を使用する場面を設定し、実際に言語を使用して互いの気持ちを伝え合う活動を大切にしましょう。

中学年の外国語活動で慣れ親しんだ語句や基本的な表現等の学習内容を繰り返し指導し、定着を図りましょう。

「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」に、「読むこと」「書くこと」を加え、中学校へつながる基礎的な力を育てましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 When is your birthday? 【第5学年】

児童にとって大切な誕生日や行事を取り上げながら、日常生活に欠かせない月日、好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う際に必要な表現を理解するとともに、それらについて尋ねたり答えたりする。

思考力、判断力、表現力等

友達の好みや欲しいもの、誕生日に関するまとまりのある話を聞いて分かったり、伝え合ったりする。

学びに向かう力、人間性等

積極的に取り組むとともに、他者に配慮しながら、好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おうとする。

3 単元のデザイン 全7時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合う単元全体のイメージをもつ。 ・ 同じ月でも日本とは季節が異なる国があるよ。 ・ 先生のように英語で会話ができるようになりたいな。
練習や自己表現活動、振り返りを重ねながら、語彙や表現に慣れ親しみ、必要な表現を習得する	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合うために必要な表現を習得し、繰り返し表現する。 ・ 月と序数を使ったら、自分の誕生日が紹介できるよ。 ・ 好みや欲しいものが尋ねられるようになってきたよ。 ・ 友達に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかな。
言語活動を行う 本時 単元を振り返り、次への課題をもつ	◎ 好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合うという言語活動を行い、自分の考えや思いを他者に伝える。 ・ 相づちを打ちながらやり取りができたよ。 ・ 今まで知らなかった友達の一面を知ることができたよ。

◎本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 児童にとって特別な月日である誕生日を扱うことで、興味や関心を高めさせる。
- 誕生日等について伝え合うという言語活動のモデルを見せることで、単元の見通しをもたせる。

対話的な学び

- ペアや班で英語を使ってコミュニケーションを行う場を設定することで、誕生日等について伝え合うために必要な語彙や表現を繰り返し用いて英語に慣れ親しみ、表現の定着を図る。

深い学び

- 慣れ親しんだ語彙や表現を活用して言語活動を行う中で、自分の言語活動を振り返る場を設定することで、改善点や気付きを促し、次の言語活動へ生かすことができるようにする。

Point

スモールトークの
位置付け

英語表現の定着を図ったり、英語学習に向かう意欲を高めたりするために、既習の表現を使って英語で会話を楽しむ帯活動（スモールトーク）を授業の導入に位置付けましょう。

Point

段階的な指導を
行う

「言語活動」「振り返り・分からない表現等の指導」「再び言語活動」という段階的な流れによって、自分のことを伝え合わせることで、児童自らが改善点を見付け、よりよいコミュニケーションの方法を考えられるようにしましょう。

Point

自己の学びを
自覚させる

振り返りのポイント（声の大きさやアイコンタクト等の伝え方や表現の工夫）を示し、具体的に振り返りを行うことで、自己の学びを自覚させましょう。

好みや欲しいもの、誕生日について、慣れ親しんだ表現を使って、相手のことを考えながら伝え合うことができる。

本時のねらい

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

帯活動（スモールトーク）を行う

学習の見通しをもち、めあてをつかむ

めあて

好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おう

やり取りをしながら、重要表現に慣れる
【Who am I?】

やり取りを重ねながら、自己表現の幅を広げる

学習内容をまとめる

まとめ

既習表現を使用して会話をすれば、好みや欲しいもの、誕生日を友達と伝え合うことができる

振り返りをする

◎スモールトークを行い、英語学習に向かう気持ちを高める。

- ・前の授業で習った表現だね。
- ・集中して先生たちのやり取りを聞こう。

◎好みや欲しいもの、誕生日について友達と伝え合おうという言語活動のモデルを示し、本時のめあてをつかむ。

- ・先生に関する情報をしっかり聞き取ろう。
- ・どの先生の情報かな。



◎言語活動を行い、必要な語句や表現に慣れ親しむ。

- ・スムーズに友達に伝えられるようになってきたよ。

◎試行錯誤や対話を重ねながら、よりよいコミュニケーションの方法を探る。

- ・自分の欲しいものをどのように言えば伝わりやすいかな。
- ・Really? Me too! Nice.を使えば、会話が続くね。



◎本時で学んだことを言葉で表現し、新たな見通しをもつ。

- ・相づちを打ちながらやり取りするとお互いに気持ちいいね。

○スモールトークを行う際は、教師とALT間で既習の表現を使ってやり取りをしながら、How about you? やWhat do you think? 等と児童に話題を振ることで、学級全体で学習する雰囲気をつくる。

主体的な学びの手だて

児童の関心のある身近な先生の情報（話題）を取り上げ、ALTが児童とやり取りをしながら、モデルを示す。

○教師の情報（話題）を取り上げる際には、Who am I? Please guess.と児童の興味を引きながら、内容を推測させる。

対話的な学びの手だて

言語活動を行う際に、まずは言語活動を実施し、語句や表現を繰り返し使用する中で、表現の仕方を徐々に理解させるようにする。

深い学びの手だて

言語活動を振り返り、上手くいった点や改善点を考えるように投げかけたり、分からない表現等の全体指導を行ったりする。

○振り返りや全体指導を踏まえて、再度言語活動に取り組みせ、よりよい言語活動を行うことができるようにする。

○友達に伝える表現や友達のことを考えた伝え方の工夫に関する気付きを称賛し、全体で共有する。



授業づくりの視点

道徳性を養う中で、児童自身が道徳的価値をこれまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、自分との関わりで考える学習を行いましょう。

多様な感じ方や考え方に接する中で、児童が自分の生き方についての考えを深めることができるように、書く活動、話し合う活動、動作化、役割演技等の言語活動を取り入れましょう。

道徳科の目標、学級や児童の実態を踏まえた上で、授業全体の方向性を問題解決的な学習としつつ、登場人物への自我関与や役割演技等の疑似体験から考えを導き出す等の指導方法の工夫をしましょう。

授業実践事例

1 主題の設定

最後まで粘り強く〔A希望と勇気、努力と強い意志〕〔第1学年〕

主題の概要

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことは、あきらめずに最後までやり抜くことが大切である。途中で困難や失敗があってもそれを乗り越えて、やり遂げる喜びや達成感を大事にし、努力する自分を認められる心情を育てたい。

学級の実態

本学級の児童は、自分の行くべきことに前向きに取り組んでいるが、自覚はあるものの忘れてたり十分行わなかったりする児童もいる。また、嫌いなことや苦手なことになるとくじけてあきらめてしまう児童もいる。

使用する教材の概要

本教材は、音楽隊の演奏会に向けてらっばを担当しているこぐまが、うまく演奏できずくじけそうになりながらも練習に取り組み、最後には演奏会を成功させる話である。あきらめかけて再び取り組んだこぐまの思いを想像することで、ねらいに迫りたい。

2 本時の展開

本時のねらい

自分がやらなくてはならないことは、最後まで粘り強く行おうとする心情を育てる。

本時の流れ

教師の発問と児童の学びの姿

教師の手だて

学習発表会の練習を想起し、めあてをつかむ

めあて

うまくいかないことがあったときも、がんばりつづけるためにはどうすればよいか

教材「こぐまのらっば」を読んで、話し合う

◎ **学習発表会の合奏の練習をしている時、どんな気持ちですか。**

- ・ 頑張ろう。
- ・ うまくいなくて嫌だな。
- ・ できそうにないな。
- ・ 難しくやる気がなくなったことがあったよ。

◎ **らっばをかかえ家の前にすわるこぐまは、どんなことを考えているでしょう。**

- ・ 練習してもできないよ。

◎ **また練習を始めたこぐまは、どんなことを思いながら練習を続けたでしょう。**

- ・ もっといい音を出したいな。
- ・ みんなを喜ばせたいな。
- ・ 応援してくれる友達のために頑張ろう。

主体的な学びの手だて 学習発表会の合奏の曲の楽譜を提示することで、今までの曲とは違い難しいということを感じ起こさせる。そうすることで、学習発表会に向けた様々な気持ちを語らせ、本時のめあてにつなぐようにする。

○ **こぐまのお面を用意し、役割演技をさせることで、うまくらっばが吹けない時の思いを捉えられるようにする。**

対話的な学びの手だて ワークシートや役割演技でこぐまが練習を続けた時の気持ちを表現させることで、こぐまと自分を重ね、役割や責任感に気付くことができるようにする。

◎演奏会后、鳴りやまない拍手を聞いて、こぐまはどんな気持ちになったでしょう。

- ・あきらめなくてよかった。
- ・みんなと一緒に演奏でき、楽しかった。

◎うまくいなくても、あきらめずに頑張ったことを紹介してください。

- ・水に顔をつけるのがこわくてできなかったけど、お風呂でも練習を続けて、伏し浮きができた。お家の人も喜んでくれて嬉しかった。

◎今日の学習で分かったこと、できたこと、考えたこと等を教えてください。

- ・こぐまの気持ちを考えることをがんばったよ。

自分の生活を見つめ、努力してできるようになったことと、その気持ちについて考える

教師の説話を聞く

振り返りをする



- 適宜、補助発問や問い返しをして、多面的にこぐまの気持ちを考えることができるようにする。

深い学びの手だて

体育科での活動の写真を提示したり、1学期の学習を想起させたりすることで、自己を振り返ることができるようにする。



- 教師が自分の体験談を語ることで、ねらいの根底にある道徳的価値をより身近に考えられるようにする。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、一定の時間や内容のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

3 評価

以下の二つの視点から教師が見取り、授業改善につなげ、学期末の個人評価の参考資料とする。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

見取る方法：ワークシートや発表等から



- ・あきらめずに練習を続けてできるようになって、お客さんに見てもらいたいな。
- ・鍵盤ハーモニカの演奏で間違えても、あきらめずがんばる。

最後まで粘り強く取り組もうとする意欲の高まりを見取る。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

見取る方法：全体の交流場面やワークシート等から



- ・こぐまも嬉しかったけど、見に来ていたお客さんも喜んでくれたよ。
- ・跳び箱が跳べたよ。お家の人が喜んでくれて嬉しかったよ。

自分だけでなく、周りの人も嬉しい気持ちになることに気付いている姿を見取る。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

Point

日常生活から道徳的問題を捉えさせる

自分自身の生き方の問題という実感を児童にもたせるために、日常生活から道徳的問題を考え、その解決に向かえるようにしましょう。

Point

多様な考えを促す

問い返しや揺さぶりをかける発問、また、主人公以外の別の立場の人物の気持ちを考えさせる発問等を行い、児童に一つの見方だけではなく、いろいろな見方から考えさせるようにしましょう。

Point

自分の生活を見つめる

自己の生き方について考えを深めるために、自分のこれまでの生活を見つめ、児童が気付きや自らの成長を実感する場の設定をしましょう。



授業づくりの視点

英語に慣れ親しむ活動や友達との関わりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動を行いましょう。

言語活動を設定し、見通しをもつ、慣れ親しむ、言語活動を行う、まとめと振り返りを行うという学習過程を意識しましょう。

「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」の音声面を中心として、コミュニケーションを図る素地を育成し、高学年の学びにつなげましょう。

授業実践事例

1 単元の概要 ALPHABET 【第3学年】

身の回りにあるアルファベットの大きな文字を取り上げることで、児童の文字への興味・関心を高め、大文字とその読み方に慣れる単元である。

2 単元を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

身の回りにはアルファベットの文字で表されているものがあることに気付くとともに、アルファベットの大きな文字とその読み方に慣れ親しむようにする。

思考力、判断力、表現力等

自分の姓名の頭文字を聞いたり、話したりして、自分の考えや気持ち等を伝え合う力の素地を養う。

学びに向かう力、人間性等

相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。

3 単元のデザイン

全4時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
単元の見通しをもつ	◎自分のイニシャルの紹介をするという単元全体のイメージをもつ。 ・アルファベットがいろいろなところに使われているな。 ・先生のように英語で自己紹介ができるようになりたいな。
練習や言語活動、振り返りを重ねながら、語彙や表現に慣れ親しむ	◎自分のイニシャルの紹介をするために、必要なアルファベットの大きな文字とその読み方や伝えるための表現に慣れ親しむ。 ・アルファベットが読めるようになってきたよ。 ・友達に伝えるためにどのようなことに気を付けたらよいかな。
言語活動を行う 本時 単元を振り返り、次への課題をもつ	◎自分のイニシャルを紹介するという言語活動を行い、自分の伝えたいことが相手に伝わる楽しさに気付く。 ・自分のイニシャルをたくさんの友達に伝えたいな。 ・名前が違うのに、友達と自分のイニシャルは同じだったよ。 ・上手に友達に伝えることができたよ。

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 自分の身の回りにあるアルファベットの大きな文字を探すことで、興味や関心を高めさせる。
- 自分のイニシャルの紹介をするという言語活動のモデルを見せて、単元の見通しをもたせる。

対話的な学び

- ペアや班で英語を使って コミュニケーションを行う場を設定し、アルファベットの大きな文字や表現を繰り返し用いることで、英語に慣れ親しませる。

深い学び

- 慣れ親しんだアルファベットの大きな文字や表現を活用して言語活動を行う中で、改善点に気付かせたり、全体に指導をしたりすることで、よりよい言語活動を行うことができるようにする。

自分の授業に取り入れて
みましょう。

Point

言語活動の見通し
をもたせる

日本語で一方向的に説明するのではなく、教師とALT等で言語活動のモデルを示すことで、行う言語活動を児童が理解できるようにしましょう。

Point

体験から
慣れ親しませる

児童が体験的なコミュニケーション活動を実際に行う中で、表現に慣れ親しむこと、英語を使用する楽しさを感じることを大切にしましょう。

Point

改善点に
気付かせる

言語活動を行う中で、児童が本時のそれまでの活動を振り返る場を設定し、言語活動をよりよく行うための改善点等に気付かせましょう。そして、その後、気付きを生かしながら言語活動を行う場を再度設定しましょう。

本時のねらい

相手に伝わるように工夫しながら、自分のイニシャルを伝えようとする。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

学習の見通しをもち、めあてをつかむ

めあて

自分のイニシャルを友達に伝えよう

やり取りをしながら、使用表現に慣れる
【自分のイニシャルを伝えてカードを友達がとる】

やり取りを重ねながら、さらに自己表現の幅を広げる
【相手に自分のイニシャルを紹介できたら、カードを渡す】

学習内容をまとめる

まとめ

イニシャルを友達に伝えるためには、声の大きさ、表情、アイコンタクト等に気を付けると伝わりやすい

振り返りをする

◎**終末で達成する言語活動のモデルを示し、本時のめあてをつかむ。**

- ・KとFが聞こえたけど、何かな。
- ・Kevin先生のKだね。
- ・自分のイニシャルを友達に伝えたいな。

◎**言語活動を体験することを通して、語句や表現に慣れ親しむ。**

- ・自分のイニシャルがちゃんと友達に伝わったよ。

◎**言語活動をよりよくするために、改善点を考える。**

- ・改善点を意識して友達に話すと伝わりやすくなったよ。
- ・自分のイニシャルがきちんと友達に伝わるように、はっきりと言おう。



◎**本時で学んだことや気付きを言葉で表現し、自分の学びを自覚する。**

- ・友達の間を見ながら、イニシャルを伝えたよ。
- ・名前は違っても、イニシャルは同じで、おもしろいね。



主体的な学びの手だて

自分のイニシャルの紹介をするという言語活動のモデルを担任とALTが実際に行うことで、児童に言語活動の見通しをもたせる。

- 聞こえたアルファベットとその組み合わせから、会話全体の内容を推測させ、自然な音声と場面から意味を聞き取るようとする態度を育てる。

対話的な学びの手だて

同じ語句や表現を別の場面で繰り返し用いることで、使い方をよりよく理解できるようにする。

深い学びの手だて

言語活動は一度で終わるのではなく、児童にやり取りをさせた後に、改善点に気付かせたり、全体に指導をしたりする。そうすることで、児童全員が気付きや改善点を共有し、その後の言語活動をよりよく行うことができるようにする。

- 学級の中で同じイニシャルをもつ児童を紹介し、「名前は違ってもイニシャルは同じである」というイニシャルの面白さに気付かせる。

- 伝え方の工夫についての気付きを称賛し、全体で共有する。

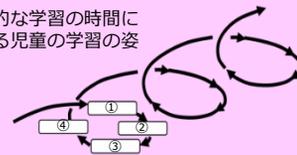


授業づくりの視点

各教科等で身に付けた資質・能力をどの学習活動でどのように活用すればよいのかを考えながら進めましょう。

単元を通して①課題の設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の探究のプロセスを繰り返すように設定しましょう。

総合的な学習の時間における児童の学習の姿



授業実践事例

1 目標を実現するにふさわしい探究課題 地域学習 [第3学年]

児童が生活している地域の魅力について、訪問して聞く等の情報収集、整理・分析、まとめ・表現という一連の過程を繰り返す事を通して、地域の魅力を「お宝」として再発見する単元である。

2 探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

地域の人々が伝統や文化を保護・活用し、大切に受け継いでいることを理解する。

思考力、判断力、表現力等

施設や人、行事、自然等様々な視点から地域の魅力に関心を持ち、調べたいことを見付け、地域の人や家族、友達と進んで関わりながら調べたり、まとめたりする。

学びに向かう力、人間性等

地域の魅力をまとめる取組を通して、地域のよさに気付いたり、地域の人々に支えられながら生活していることに気づき、地域を大切にしていこうとする気持ちを育む。

3 単元のデザイン 全40時間

本単元の流れ	児童の学びの姿
身近な地域の施設を知る 【課題の設定】 【情報収集】（体験） 【整理・分析】 【まとめ・表現】 （次の課題設定）	◎ 社会科の地域探検を振り返り、地域の施設について知っていることを伝え合う。 ・ 科学館ならよく行っているし知っているよ。 ・ 科学館の中に石器等を調査する部屋があるなんて知らなかった。 ・ 「何人で調査をしているの」等、聞きたいことがまだまだあるぞ。 ◎ より詳しく知るために、繰り返し訪問し、新たに知ったことも併せてまとめる。 ・ 聞いた内容をまとめるために、まずは付箋に書き出して整理してみよう。 ・ この発表で、聞いた内容をしっかり伝えることができたかな。 ・ 他のお宝も調べたいな。
地域の他の特徴を考える 【情報収集】（体験） 【整理・分析】 【まとめ・表現】	◎ 視野を広げ、地域には、他にどんなお宝があるか調べる。 ・ 地域のお宝がたくさん集まったな。 ・ 調べた情報を分類すると同じものもあるね。 ・ なぜ、地域のお宝と言えるのかな。情報を基に理由も考えよう。 ・ みんなの発表を聞くと、地域には、いろんなお宝があることが分かったね。 ・ 調べてまとめたことを参観日で発表するとドキドキしたけど伝わったかな。
伝えたいことをまとめる 【課題の設定】 【整理・分析】 【まとめ・表現】	◎ 地域を調べて見付けたお宝を、他の学級や2年生にどう伝えるかを考える。 ・ ここまで調べた内容を、他の学級や2年生にどう伝えようか。 ・ 分かりやすいように、パンフレットにまとめたらどうだろう。 ・ 友達の発表を聞いていると、さらに知りたいと思うことが多くあった。地域にはいろんなお宝があるよね。まとめは大変だったけど、すごく楽しくできたよ。

本時

○本単元における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

○探究課題を見付け、主体的に解決しようとする等の探究のプロセスのサイクルを繰り返し設定し、それぞれの過程を、児童が意識できるようにする。

対話的な学び

○友達と協働して課題を解決するために、自分の考えたことを伝え合ったり、学級や班で考えを集約したりする等の場を設定する。

深い学び

○振り返りの時間を確保するだけでなく、その視点も示し、聞き手を意識した発表の仕方等の新たに身に付けた資質・能力の自覚ができるようにする。

※下線部分は、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」において特に大切にしてほしい教師の手だてを示しています。

4 本時の展開 第31時／全40時

本時のねらい

班ごとにパンフレットに載せたいお宝とそれを選んだ理由を説明し合い、各班の発表内容についてよかったところや改善点を考えることができる。

児童の学びの質を高めるPoint

自分の授業に取り入れてみましょう。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

前時までの学習を思い出し、本時のめあてをつかむ

めあて
班でまとめたお宝について、よりよい発表になるよう準備しよう

班での話し合いをもとに発表し、発表の工夫について助言し合う

取組をまとめる

まとめ
他の班の助言を参考に、よりよい発表にする修正点に気付いた

振り返りを行う

◎前時の学びを振り返り、本時のめあてを考える。
・前の時間は地域の特徴（お宝）を班でまとめたので、今日は班発表をします。

◎前時にまとめた内容をどう発表するかを話し合う。
・私が全体の進行をします。
・私は前半の発表をします。

◎他の班の発表を聞き、よりよい発表にするために助言する。
・地図があった方が、場所がよく分かると思う。
・お宝を選んだ理由を書いた方がよく伝わると思う。
・よく伝わるまとめをしているから、もっと自信をもって発表すればいいと思う。

◎本時の学習を振り返り、今後の取組の見通しをもつ。
・他の班からの助言を基に、お宝のまとめ方の改善点を考えることができた。
・なぜ調べようと思ったかの理由等、聞いてくれる人を意識してまとめたい。
・まとめだけでなく、発表についても練習したい。

主体的な学びの手だて 探究のプロセスを提示し、本時がどの過程で、今日は何をすればよいのかについて、児童に考えさせ、本時のめあてをつくる。

○前時にまとめた資料を見ることで、内容を想起するとともに、進行や発表等、班内の役割分担を確認させ、スムーズな発表につなげる。

対話的な学びの手だて 発表を聞く視点（よかった点、改善点）を示した助言シートを基に他の班の発表を聞き、よりよい発表に向けて相互に助言できるようにする。

深い学びの手だて 三つの視点（よく考えたこと、もっとよくしたいこと、次にやりたいこと）から振り返り、その内容を発表することで、今後の学級全体の活動イメージがもてるようにする。

Point

めあてを主体的につかませる

探究のプロセスを児童に意識させ、思いに寄り添いながら本時のめあてをつかむことができるようにしましょう。

Point

考えを整理する技法の活用

聞く視点を示したワークシートを活用し、聞き手としての自分の考えを整理し、他班の改善につながる助言ができるようにしましょう。

Point

視点をもたせた振り返り

振り返りは、毎時間同じ視点で書くことで、内省を促すようにしましょう。また、発表することで、学級全体で共有するようにしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。



授業づくりの視点

各教科等で児童が学んだ知識や技能を、教師が関連付けて整理しておき、特別活動における集団及び個人の問題解決のために活用できるようにしましょう。

学級活動（１）では、「事前の活動」「本時の活動」「事後の活動」といった一連の活動を児童が主体的に行うことによって、自発的、自治的な学級の生活づくりが展開されることとなります。学習過程を明確にした授業づくりを行いましょう。

授業実践事例

1 議題の概要 卒業アルバムの学級ページを考えよう【第6学年】 学級活動（１）

小学校生活の思い出が形として残る卒業アルバムの学級ページについて、友達の意見を否定するのではなく、どのような価値があるのかに目を向けながら話し合い、学級全体にとってよりよい合意形成を行い、決まったことについて友達と協力して取組を進める議題である。

2 活動を通して育成を目指す資質・能力

知識及び技能

卒業アルバムの価値や、卒業アルバムの学級ページの内容について、学級全体としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方等について理解する。

思考力、判断力、表現力等

卒業アルバムの学級ページの内容を話し合う中で、自分の役割や責任、学級全体としてのよりよい内容や方法等について考え、互いに信頼し支え合って実践する。

学びに向かう力、人間性等

卒業アルバムの学級ページづくりに関心を持ち、友達と協力して話し合ったり、実際にページを作成したりすることに取り組もうとする。

3 活動のデザイン

本活動の流れ	児童の学びの姿
○事前の活動 活動の見通しをもつ	◎議題である卒業アルバムの学級ページについてのイメージをつかむ。 ・家族にインタビューしてみると、卒業アルバムの大切さがよく分かった。 ・自分たちにとって価値ある内容を載せるために、みんなで話し合いを深めたい。
○本時の活動 みんなで話し合っ合意形成をする 本時	◎みんなでよりよい学級ページの内容を決める。 ・様々な意見が挙がってきたが、意見を組み合わせたり、よいところを基にして新たな意見を生み出したりすると、自分にとってもみんなにとってもよいものに決めることができるんだな。
○事後の活動 活動について振り返り、まとめる	◎決まったことを基に、学級ページに載せる具体的な内容やデザインを決め、アルバムを作成して振り返る。 ・現在の素直な思いを学級ページに書くことで、将来、卒業アルバムを見た時にきつとなつかしく思えるだろう。 ・自分事として本気で話し合うことができたから、すてきなアルバムになったぞ。

○本活動における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を支える手だて

主体的な学び

- 卒業アルバムについて、家族にインタビューしたり、家族から卒業アルバムを見せてもらったりする場を設定する。
- 提案理由や話し合いのめあて等を掲示して見通しをもたせる。

対話的な学び

- 「出し合う・比べる・まとめる」といった流れで話し合いを行うようにしておき、話し合いが可視化された板書を位置付けることで、互いの意見に目を向けやすくする。

深い学び

- 話し合った過程や内容を教室に掲示しておくことで、みんなの願いとして挙げられた複数の視点を関連付けやすくする。
- それぞれの意見に対する理由や根拠を確認するように促す。

児童の学びの質を高めるPoint
自分の授業に取り入れてみましょう。

本時のねらい

提案理由や話し合いの視点を基に、個人の思いや学級にとっての価値に着目しながら話し合いを進め、学級ページを考えることができる。

本時の流れ

児童の学びの姿

教師の手だて

- 1 はじめの言葉
- 2 司会班の自己紹介
- 3 議題「卒業アルバム」の確認
- 4 提案理由やめあての確認
- 5 決まっていること・視点の確認

話し合いのめあて
自分やみんなにとってより価値のある意見はどれか考えながら発言したり、友達の意見を聞いたりしよう

- 6 話し合い
- 7 決まったことの確認

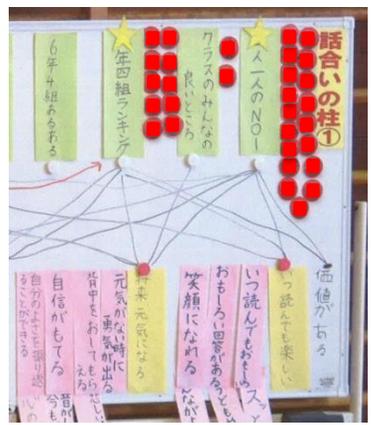
- 8 話し合いの振り返り
- 9 先生の話
- 10 終わりの言葉

◎司会班から提案理由や話し合いの視点等が確認されたことを基に、よりよい意見は何かについて考えるという見通しをもつ。

・卒業アルバムは、未来の自分たちを元気にしてくれるものだったな。提案理由を意識して話し合っていくぞ。

◎出された意見とその意見がもつ価値について比べ合う。

・「将来の夢」の意見は、学級ページではなく、「各自のプロフィール」に入れてもいいのではないかな。



◎提案理由等を踏まえて、学級ページの内容を決定する。

・個人的な内容より、学級全体の内容の方がふさわしいと考えを修正したぞ。決定する根拠がみんなの願いに沿っていることが大切なんだな。



主体的な学びの手だて 提案理由や話し合いの視点等を黒板に掲示して確認することで、話し合う内容について共通理解できるようにする。

対話的な学びの手だて 赤色（賛成）の印で児童の意見の可視化を図り、話し合いの状況等を整理された板書で示す。出た意見とその価値を掲示し、線で結ぶように黒板係に伝えておく。

○事前の活動において、司会班とタイムスケジュールを確認しておくとともに、話し合いの流れに応じて重点的に話し合う内容を学級全体で共通理解を図るようにする。

深い学びの手だて 選ばれなかった意見についても、他の内容との統合を検討したり根拠を見極めたりすることを投げかける。

○「先生の話」では、司会を担当した班のがんばりや新たな視点や価値で意見を捉え直すことができた児童を称揚したり、事後の実践に向けて、みんなで協力してよりよい学級ページにしていくことを助言したりする。

Point
話し合う内容の確認

児童自ら課題を見だし、本気で解決したい内容を議題に取り上げるようにしましょう。その際、提案理由等を明確にして話し合えるように示しておくことを大切にしましょう。

Point
話し合いの流れの可視化

話題の中心や賛成意見の数等を黒板に視覚的に位置付けるようにしましょう。その際、色分けをしたり線で結んだりして分かりやすく位置付けておくことで、児童自身が意見を比べられるようにしましょう。

Point
理由や根拠の確認

少数意見を大切にしながら互いの意見を精査して、折り合いを付けた話し合いができることを目指しましょう。その際、それぞれの意見が出された理由や根拠を明確にすることを大切にしましょう。

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は、必ずしも全てが1単位時間の授業で見られるものではなく、単元や題材等、内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくものです。本資料では、1単位時間において三つの学びを支える最も効果的な教師の手だてを精選し、紹介しています。